

脳 神 経 外 科 学

【単位数：1単位，授業16コマ，予備4コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

渡邊 督 教授(脳神経外科学)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b)

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために、脳神経外科領域疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナルリズム」の涵養を図る。

(2) 学修目標

- ① 大脳，小脳，脳幹，脊髄，脳神経，末梢神経，下垂体，頭蓋底部の正常な構造と機能について説明できる。
- ② 脳及び脊髄の血管支配について概略と機能，閉塞などの異常に起因する障害について説明できる。
- ③ 脳神経症状から，脳神経の局所診断や脊髄・末梢神経の高位診断並びに鑑別診断を述べることができる。
- ④ 基本的な脳神経外科疾患の画像を読影し鑑別診断することができる。
- ⑤ 脳脊髄液の循環とその異常について説明することができる。
- ⑥ 脳ヘルニアの機序と病態及び外科的治療限界について説明できる。
- ⑦ 脳神経救急の種類，病態を整理し，横断的知識に基づく鑑別診断と，緊急対応特に外科的介入の仕方について説明することができる。
- ⑧ 頭部外傷の種類とその病態，及び外科的治療法について概要を述べることができる。
- ⑨ 脳血管障害の病態，病因，症候，検査所見，診断，内科的/外科的治療及び予防方略の要点を説明できる。
- ⑩ 脳腫瘍の種類とその病態，病理及び外科的治療法について概要を述べることができる。
- ⑪ 機能的脳疾患(パーキンソン病，てんかんなど)について病態と外科的治療法の概要を述べることができる。
- ⑫ 脊髄疾患(変形性脊椎症，脊髄血管障害，外傷など)について病態と外科的治療法の概要を述べることができる。
- ⑬ 末梢神経絞扼障害について病態と外科治療の概要を述べることができる。
- ⑭ 小児脳疾患(先天性奇形，水頭症など)の病態と外科的治療法の概要を述べることができる。
- ⑮ 観血的外科手術と低侵襲治療(脳血管内治療，内視鏡治療，定位的脳手術)の違いと利点，欠点を理解するとともにその概要を述べることができる。
- ⑯ 術後後遺症についてのアプローチ(理学療法，薬物療法，追加治療など)について，その目的と方法の概要を述べることができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	80%	原則として記述式とする。
小テスト	○	20%	画像の読影を中心とし，診断名を記入する様式とする。 【再評価について】 やむを得ない理由で欠席した場合でも，追試験の機会はない。 欠席時の対応は科目責任者へ問合せすること。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

評価対象項目が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。
基本的に模範解答と、解説は問題ごとに試験後に公表する。
定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
病気がみえる (vol.7) 脳・神経	医学情報科学研究所編	医療情報科学研究所	図が多く視覚的に脳神経外科疾患の基本が理解できる。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
標準脳神経外科学	児玉南海雄	医学書院	脳外科疾患と治療についてのスタンダードなテキスト。
脳神経外科 Neurosurgery	太田富雄	金芳堂	理解を深めるための百科事典としての詳細なテキスト。
ベッドサイドの神経の診かた	田崎義昭, 斎藤佳雄	南山堂	脳神経診察の仕方を理解するための参考書。

6 準備学習(予習・復習)

- ① 教科書にて、授業で取り扱う疾患について大まかに理解し、疑問点を掴んでおく(1コマあたり約0.5時間)。
- ② 授業で配付されたプリントなどを再確認し、疑問点を解決し、脳外科疾患について理解を深めていく(1コマあたり約1時間)。
- ③ 講義で用いるスライド資料はデータとしてiPadなどで活用できる形式を導入し、授業前に配付するので、これをあらかじめ目を通しておく(1コマあたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的には教室での知識伝達型の講義である。
シミュレーション課題を課し、小グループ討論を行い、講師との質疑応答形式のアクティブ・ラーニングを行い、12月3日に小テストを予定している。

(2) 講義の内容

初回の講義にて脳神経外科について総論として解説し、その後は脳神経外科領域において取り扱う疾患について、具体的な疾患の症例提示をしながら概念理解を進めていく。